

市民のみなさんの「声」を市政に 平成29年度「市政懇談会」を開催しました



本市では、「市民が主役のまちづくり」を進めるため、工藤市長および市職員が地域へ外向き、皆さんが口頃から感じている市政への意見や提言、また、地域で抱えている課題などを幅広くお聴きする「市政懇談会」を開催しています。

平成29年度は各地区を中心に16回開催し、延べ499人の参加があり、活発な意見交換が行われました。

参加者から、まちづくりやこれからの行田のあり方に関し、さまざまな意見が寄せられましたので、意見の一部を紹介します（抜粋・要約）。

日本遺産の認定

Q 「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」として埼玉県内初の日本遺産に認定され、日本遺産推進協議会が発足したが会議は公開し、委員に若い方、女性は入っているのか。おもてなしをするにあたり人材育成や外国人への対応はどうなっているのか。

A この協議会には自治会女性部の方、青年会議所やNPO法人の若い方も参加しており、会議は公開され、議事録も市ホームページに掲載しています。

また、人材育成についてはガイド、ボランティアの育成などを通じて、おもてなし体制の充実を図ります。なお、外国人への対応については多言語表示やガイドの育成、情報発信の強化、「マイ足袋づくり」などの体験型観光など、市民の皆さんや事業者の方々と連携して、インバウンド事業を進めてまいります。



防犯カメラの設置

Q 駅周辺や道路に防犯カメラは設置されているのか。防犯カメラの映像は警察の捜査にも非常に役立つ。痴漢や恐喝の被害があったと聞いている。ぜひ防犯カメラの整備をお願いしたい。

A 質問いただいた場所には防犯カメラは設置されていません。市内の隅々までというのは難しいですが、すでに防犯カメラの先進事例についての調査研究を行い、公共施設を中心に防犯カメラの設置を進めています。今後も防犯灯などを活用しながら公共施設から徐々に防犯カメラの数を増やしていくことを考えています。

子ども医療費

Q 子ども医療費について、熊谷市や深谷市は18歳まで対象年齢を拡大しているが、行田市では対象年齢の拡大の予定はあるのか。

A 子ども医療費の18歳までの対象年齢拡大について平成30年3月議会に上程し、平成30年10月診療分からの実施を目指しています。実施となれば、子ども医療費は県内でもトップクラスの支援体制となります。

ラジオ体操の普及促進

Q 2年前から、体育協会ではラジオ体操の普及促進を行っており、毎年7月末に専門家2人の指導の下、体操会を開催している。しかし、参加者が平成28年度は600人弱、平成29年度では500人ちょっとと少ない状況。健康づくりのため、ぜひ自治会や学校にも協力いただき、地域一体で行ってほしい。

A 朝日を浴びながら、ラジオ体操が市内のあちこちで聞こえてくるようなまちにしたいと考え、NHKのラジオ体操会に毎年応募しています。健康や介護予防のため、ラジオ体操とともに長親（ながちか）体操も併せて市内で盛んに取り組んでいってほしいので、自治会などにも年1回のラジオ体操会への参加をお願いし、皆さんとともに体操の普及を図っていきます。

「れからのごみ処理

Q ごみの広域化により分別などの収集方法と収集日数は変わるのか。また、ごみ袋は広域化されると指定の袋を購入しないといけないのか。家族の人数が少なくごみの量も少ないとごみ袋代を節約するために1週間分をまとめて捨てることになるが、こうした場合、臭いの問題なども出てくるので複数のサイズを用意してもらいたい。

A まだ広域化後のごみの収集方法などの詳細は決まっていません。市としては不燃ごみとして収集しているプラスチック製容器包装とペットボトルは再生可能なものとして資源化したいと考えています。

また、収集日は祝日も収集および直接搬入が可能となるよう要望し、粗大ごみは有料となっても自宅まで取りに行くリクエスト方式を検討したいと考えています。

なお、ごみ袋はいろいろなサイズが必要と思われるので、指定袋導入と併せて検討したいと考えています。

▼問い合わせ 広報広聴課広報広聴担当
(内線3180)



昨年7月に行われた「みんなでラジオ＆ながちか（長親）体操」の様子